

<2016年4月 月例会報告>

海外サッカー中継の舞台裏

仁藤 慶彦 ((株) WOWOW 制作局スポーツ部サッカー班)

【日 時】2016年4月21日(木) 19:10~21:00 (その後「景宜軒」~23:20頃)

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室 (東京都文京区大塚 1-9-1)

【テーマ】海外サッカー中継の舞台裏

【演 者】仁藤 慶彦 ((株) WOWOW 制作局スポーツ部サッカー班)

【コーディネーター】笹原 勉 (日揮)

【参加者(会員) 11名】

安藤裕一 (GMSS ヒューマンラボ)、梅本嗣 (博報堂)、金子正彦 (会社員)、小池靖 (サッカースポーツ少年団・さいたま市)、笹原勉 (会社員)、澤田勝徳 (日本テレビサービス/元高校サッカープロデューサー)、田中理恵 (会社員)、徳田仁 ((株)セリエ)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、山内直、吉原尊男

【参加者(未会員) 2名】

大日向航 (明治大学(明治大学釜崎大先生の代理参加))、仁藤慶彦 ((株)WOWOW)

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません (ご本人の了解が得られた範囲で公開しています)

【報告書作成者】大日向航

< 目 次 >

1. 演者プロフィール
2. リーガ・エスパニョーラ
3. プロデューサーの仕事
4. 中継番組に関わる人物
5. エンターテインメントにできること
6. 質疑応答

【概 要】長年 WOWOW で海外サッカー中継番組の作成に当たっている仁藤慶彦さん。仕事で出会ったサッカー関係者の言動や、彼らから受けた影響なども交えながら、海外サッカー中継・ドキュメンタリーの仕組み、番組作成スタッフの働き方、番組が出来るまでのプロセスについて、お話しいただきました。

1. 演者プロフィール

仁藤慶彦

2002年 株式会社 WOWOW 入社

2005年 スポーツ部サッカー班に配属、今に至る

中学2年生までジャカルタに5年間在住。高校一年生の時にプロにはなれないと悟ったが、「サッカー関係の仕事でメシが食えたら」と考え続けていた。文章を書く事に苦手意識がなかったということもあり、ジャーナリズム分野に進むことを心に決めた。

2005年～2006年シーズンからリーガ・エスパニョーラ中継を担当している数ある業務の中で勉強になるのは、年に1回制作する「ドキュメンタリー番組」だ。物語をゼロからつくる、という作業には、様々な視点、能力が求められるからだ。

自身が制作した中で視聴率が獲得できたものなどをスライドに記述しているが、GK という特殊な職業に着目した「ノンフィクション W〜フットボールの守り神」には特に思い入れがある。

ノンフィクション番組、なにが起こるか分からないということもあり、失敗した例も多々ある。例えば、2014年に制作した田中マルクス闘莉王を扱った番組。仁藤さん自身もつながりがあり、ザッケローニジャパンに必要不可欠な人間だと思っていたからだ。しかし、彼は代表に選ばれることはなかった。また、2015年のセレッソ大阪に所属していたフォルランを扱った番組。スペイン出張の際に知り合い、ドキュメンタリー番組を制作したが、2部へ降格してしまった。

これがノンフィクション番組の難しさだ。「だからこそ、ドキュメンタリーは面白いんです」と仁藤さんは話す。

2. リーガ・エスパニョーラ

「リーガ・エスパニョーラ」というリーグは日本人にとっては非常に難しいリーグだ。中村、大久保、家長と数々の日本人が挑んだが、いずれも短期間で去っていった。家長は、関係者の中では「Jリーグで最も上手い選手」とさえ囁かれていたが、スペインでは並の選手と化してしまう。ハーフナーマイクという、過去に挑戦した日本人にはない特徴をもった選手も近年挑戦したが、やはり半年で契約解消という結果になってしまった。

10年間、リーガ・エスパニョーラの全1900試合を見てきているという仁藤さん。「スペインの選手はすべてわかる」と自負する。WOWOWは、ネット限定番組などを駆使してリーグの試合を視聴者に届けようと画策している。

「なにかプロデューサーとしての思いを視聴者に伝えたいと思っている」。そう語る仁藤さんには番組制作時、以下の思いを胸に刻んでいる。



“スペインサッカー リーガ・エスパニョーラ。

世界最高のサッカーリーグ。
世界中のサッカー少年が夢見る舞台…
世界中のサッカー選手が目標とする舞台…

しかしそこは、最も険しきフィールドでもある。
未だ1人として成功した日本人はいない。
日本のエースも、代表の10番も…皆、その壁に跳ね返されてきた。
選ばれし者だけが許される至高のピッチだ。

さあ、日本のサッカー少年・少女よ。
「諦めるな、憧れ続ける！」“

世界最高峰、最も険しいリーグとも言われるリーガ・エスパニョーラ。未だにひとりとして日本人選手はこの地で成功していない。日本のサッカー少年、少女がいつかリーガ・エスパニョーラで活躍し、クラシコの舞台に立つことを仁藤さんは夢見ている。

3. プロデューサーの仕事

端的に言うと「いくらで買うか」ということを代理店相手に交渉するところから仕事はスタートする。

続けて、年間予算、放送枠の提案、実施、キャスティング、スタッフィング（制作は制作会社に委託するため）、中継…と仕事は続く。

8月下旬からリーグは開幕。5月下旬まで続く。6～7月がオフ。ただ、ユーロ、Wカップ期間も仕事をするので、実質まとまった休みをとれるのは2年に1回だ。ただ、「好きなサッカーで仕事しているので休みはいいです。本当に幸せです」と明かす。

土日は深夜中継。24時に出社して、朝に帰って昼に寝るというスケジュール。月曜はリーガダイジェスト、火曜は休み。水曜は中継の準備というのが週の流れとなる。

4. 中継番組に関わる人物

■中継番組に関わる人物

①プロデューサー

TV局勤務。コンセプト・枠・予算・スタッフ・出演者を「企画書」にて提案。入口から出口まで全責任を担う。

②ディレクター

TV局もしくは制作会社勤務。コンセプトを具現化(演出)する。

③中継技術

CAM:カメラ、SW:スイッチャー、VE:画質管理、MIX:音声、TK:タイムキーパー、音効:BGM、FD:フロア

④放送技術

回線センター、VTR収録センター、編集センター、マスター室(放送管理)

⑤出演者

解説者、実況アナウンサー、ゲストほか

■売場バケ番組(ドキュメンタリーや情報番組など)に関わる人物

⑥放送作家

物語の構成、ナレーション原稿を作成。

⑦ナレーター

ナレーションで声を吹き込む。



1試合に対してスタッフは30名ほど。ドキュメンタリー番組、情報番組の場合上記に放送作家、ナレーターなどが加わる。

■制作ポリシー

最も大切にしていること、『**現地感**』。

テレビ屋は演出したがる。自分の色を出したがる。でも、試合それ自体がドラマ。だから極力余計な味付けはせず、生で「リアル、をみて(感じて)もらう。

EX: 具体策

① 会場音

② 「モニターの～」とか「画面の～」という言葉は極力避ける

③ LIVE スーパーに都市名を入れる

④ 画質

⇒理想は視聴者に「毎試合が現地中継」だと勘違いしてもらうこと。

仁藤さんが制作ポリシーとして最も大切にしていることは『現地感』だ。テレビ屋はどうしても演出したがるし、自分の色を出したがる。でも、試合それ自体がドラマであるとする仁藤さんは、極力余計な味付けはしたくないと話す。

具体策として、以下の4つを挙げた。

- ① 会場音（例えば、チームの入場時にはアナウンサーや解説者には黙ってもらい、会場音を上げるなど）
- ② 「モニターの～」とか「画面の～」という言葉は極力避ける（視聴者と同じ立場に立ってもらうため）
- ③ LIVE スーパーに都市名を入れる
- ④ 画質

理想は視聴者に「毎試合が現地中継」だと勘違いしてもらうことだという。

WOWOW は有料放送であり CM が存在しないので、ハーフタイムこそ自分たちの意志を出す場所としている。このハーフタイムにこそ、日本サッカーが学べるポイントがあるのではないかと考えている。

“ハーフタイムは唯一自分達の意志を伝えられる場。WOWOW のハーフタイムはトイレタイムじゃない。現地取材や選手インタビューを可能な限り見せる。現地感を感じて欲しい。また日本サッカーが学べる部分を見出して欲しい。だから必ずフォーメーションで良かった選手、悪かった選手について前半をおさらいする。”

また、解説者にはなるべくポジティブなコメントを入れることを求めている。1対1などでFWが外

した際に、「なぜ外したのか」という視点でそのシーンを捉えるのではなく、GKのポジションのよさなどに着目するよう指示している。そして、この姿勢は解説者の方々の支持を得ている。解説者に説得力をもたせるべく、代表経験者もしくはリーグ経験者という基準で選定している。

“解説はポジティブに。せっかく貴重な時間を費やして観て頂くので、マイナスなことばかり言及したくない。例えばGKとの1対1のシーン。

解説者の選定基準がある。代表経験者もしくはリーグ経験者。全ては説得力と納得性。”

また、解説者には顔を出してもらうことを求めている。視聴者にとって、顔と名前が一致することが大事だと考えているからだ。この部分は、他局との大きな違いであると思われる。

“スタジオで極力顔出しをする。目を見て話した方が伝わるし、顔を出す事で喋り手も責任感が増す。適当な仕事が出来ない。テレビの世界では、顔と名前が一致することは非常に重要。コメントに重みが増す。”

5. エンターテインメントにできること

◆WOWOWに入って良かったと思うこと

2011年3月11日(金) 東日本大震災

各局が「地震速報」に切り替える中、WOWOWはアメリカの格闘技「UFC」を放送していた。

翌朝、会社から発表されたメッセージ

「エンターテインメントにできること」

そして向かえた

2011年3月19日(土) リーガ・エスパニョーラ中継・・・

2011年3月11日の、東日本大震災での出来事だった。その際、各局は地震速報を流し続けたが、WOWOWは格闘技(UFC)を放送した。仁藤さんは、「報道に関わるものとして、これでいいのか？」と悩んだという。しかし、翌朝会社から発表されたメッセージを読んでほっとした。

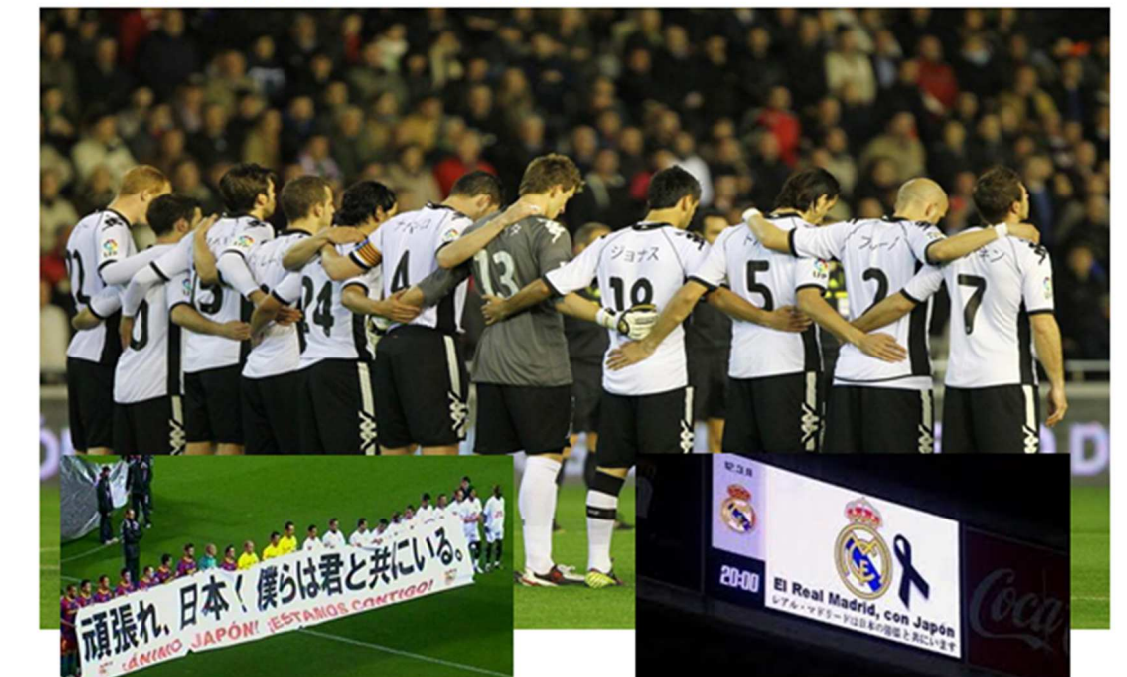
「我々は、エンターテインメントにできることを考えて震災に向き合っていく。少しでも明るく、笑

ってもらえるような番組をつくろうじゃないか」

そこで仁藤さんは、エンタメ局に、視聴者が求めている役割について改めて気づいたという。仁藤さんが WOWOW に入ってよかったと思ったことは、震災後、エンタメ番組にできることについて真摯に取り組んでいこうと気持ちを新たにして、リーガ・エスパニョーラの中継を行っている時だった。

◆WOWOWに入って良かったと思うこと

2011年3月19日(土) リーガ・エスパニョーラ中継



セビージャ対バルサ戦では、両チームの選手たちが日本の大震災の被害者を応援するために日本語とスペイン語で『頑張れ、日本！ 俺らは君と共にいる。』と書かれた横断幕を持ってフィールドの中央に立った。続くレアル・マドリード戦でも『私たちは日本の皆さまと共にいます』と日本語で書かれた横断幕を両チームの選手たちが掲げ、1分間の黙とうが行われた。

そして、リーガ・エスパニョーラ第29節のセビージャ戦に臨んだバレンシアが、新たな手段で日本に励ましのメッセージを送った。背中の選手名がカタカナで表記されたユニフォームを用意したのだ。自身の名前がプリントされた特注ユニフォームを各選手が纏いプレーした。

これらのシーンを見た仁藤さんは、WOWOW に入って本当によかったと感じ、サッカーは世界の共通語なんだ、と涙をこらえながら痛感した。

6. 質疑応答

--- : アナウンサーに対して、これはしないようにしようといった取り決めなどはありますか。

仁藤さん : どちらかのチームに肩入れをするのをやめようとしています。例えば、バルセロナとその他のマイナーチームの試合があったとしても、WOWOWは50:50でアナウンスをする。100人視聴者がいたとしたら、99人はバルセロナを応援しているかもしれないけれど、1人は逆側のチームのファンで、バルセロナ寄りのアナウンスに嫌悪感を抱くかもしれない。

ですから、仮に日本代表 vs フィリピン代表の試合があったとしても、WOWOWはフィリピン代表も徹底的に調べます。

--- : WOWOW以外で着目しているサービスはありますか？

スカパーさんがJ1、J2全試合を放送し続けているのはすごいですね。僕はヴェルディファンなのですが、スカパーさんがなかったらなかなか試合を見ることはできません。そういったニッチな層にも対応すべく予算投下している姿勢はリスペクトしています。はじめから長期的に考えている。Wカップの時も全試合放送していましたからね。地上波でもやるし、日本代表戦だけでいいじゃん、と考える人も多いと思うのですが、全試合やることに意味がある、と。そこにこだわりをもっている。